



特定非営利活動法人

東京学芸大子ども未来研究所

Tokyo Gakugei Univ. Children Institute for the Future

TECH未来通信

2022.MAR
VOL.048



〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学内20周年記念飯島同窓会館1階
042-316-6645 info@techmirai.jp

TECH未来を使ってきた先生方(その30)

広島県でのTECH未来

今回は、広島大学附属中・高等学校の向田識弘(むかいだ のりひろ)先生にお話を伺いました。長年TECH未来をご活用くださっています!4年ほど前にもTECH未来通信に登場していただいています。改めてお話を伺ってみました!

—TECH未来を使用して何年目ですか?

公立中学校で1年、大学附属学校で7年の計8年目になります。

—具体的にTECH未来を使ってこれまでにどのような授業を実践してきましたか?

最初は照明回路の設計をテーマに大学の先生から紹介を受けて実践しました。その後、電気自動車モデルの設計・製作を行い、授業事例として教育研究大会を通じて先生方に提案しました。最近では、動力伝達の仕組みによる問題解決をテーマに授業実践を行ってきました。この授業では、生徒が生活や社会の中から問題を発見し、パーツを組み合わせることで機構を考え、歯車によってモータからの動力を調節し、解決に向けた製品を設計・製作します。

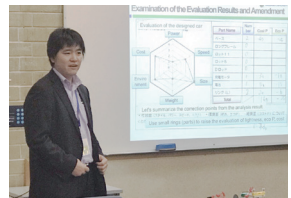
—これまで授業を実践をされて、印象に残っていることはありますか?

エネルギー変換の授業では、最初にTECH未来パーツ

を使って手回し発電回路を作らせるのですが、生徒たちは作った電気回路でライトが点灯したときに驚き、目が輝きます。そして、いくつか演習をしながら、電気回路や歯車、リンク機構について学習した後、問題解決の授業を行ったとき、生徒たちの斬新なアイデアや柔軟な発想を見ることができ、指導者である私が勉強になることがたくさんありました。生徒たちは設計をもとに自由にパーツを組み合わせることで仕組みを具体化させることができ、うまくいかないときは設計を修正しながら何度も試行錯誤して作っていました。TECH未来パーツが多種多様であり、ねばり強く作れるからこそ、発表と評価でもお互いのアイデアを認め合い、技術の発展に積極的に関わろうとする意識が芽生えていくのだろうと考えています。

—最後に一言!

3月で附属学校を離れますが、TECH未来との出会いは私にとってかけがえのないものとなりました。東京学芸大子ども未来研究所の方々のご支援もいただき、生徒を引率して台湾での国際大会にも参加させていただきました。将来に向けた技術科教育の可能性を信じ、次のステップでもチャレンジを続けていきます。



編集後記

これまで多くの授業実践をありがとうございました!向田先生の新天地でのご活躍をお祈り申し上げます!